

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401699
法人名	(有)なごみ会
事業所名	グループホーム 諏訪の里
所在地	〒859-1504 南島原市深江町丁1520 (電話) 0957-72-5388

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年2月7日

【情報提供票より】(H19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部 鉄骨二階建て 2階建ての 階 ~ 2階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・島原保養院・上田歯科・八尾病院・しらの医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの窓からは有明海が一望でき、後方には普賢岳がそびえ立ち、環境豊かな場所にある。管理者・職員は、介護経験が豊富にあり、残存機能を理解した、さりげない支援がなされている。室内は照明がいらぬほど明るく、自然な光が差し込んでいる。壁や床の色も配慮されており、自然な温もりを感じられる。建築家であるご主人と共同で思案した造りとなっており、廊下も広く車椅子の移動もスムーズに出来、威圧感を感じる事はない。リビング・脱衣所は水拭き出来るよう、特別な床張りを使用する等、ホームの設計に当たっては、ホームの周囲は民家が多く地域住民や自治会の子供達との交流もあると共に地域行事には積極的に参加する等、地域とのふれあいを大切にされた地域に密着したホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価後、改善点について職員で振り返り、改善目標を立て、改善に向けた計画を立てる取り組みが行われた。地域とのふれあひも広がってきている。又、入居者の状況を分かりやすく伝えるために、ホーム便りを発行されており、記録を残すことにより、事故防止にも努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が状況を職員へ話され、全職員で取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域への理解をより一層促す為にも、運営推進会議の有り方や取り組みを工夫され、偏見の無い住みやすい環境の元、地域に密着したホームを作って頂きたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年に一回行事に後に家族会を開かれている。又、玄関のそばのカウンターには投書箱を設けておられ苦情等は誠意を持って対処され、全員で検討し取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームの直ぐ横に管理者の住まいがある。周囲は住宅街で地域の子供達との交流も深く、入居者の方も笑顔で交流されており、地域の行事にも参加されている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の輝き共に支えあえる環境づくり」を理念として掲げ、さりげなくサポートし、自立を援助する事を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理解し、念頭に置かれている。又、ホームの玄関の見やすい所へ読みやすい字で掲げられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周囲は民家が多く、お祭りや市民清掃、地域の行事には参加され自治会の子供達との交流もあり、地域の一員としてのつながりを積極的に取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを作成し、改善に向けての取り組みがおこなわれている。職員へも話され評価に対しての前向きな姿勢がうかがえる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催することで、特に民生委員とのつながりが深まったと感じておられるが、会議の有り方として活発な意見が出ない場合がある。		地域への理解を促す為にも、運営推進会議の有り方や取り組みを工夫され、地域に密着されたホームを作って頂きたい。

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかわりには島原半島グループホームケア研究会を通して島原地域広域市町村圏組合とも連帯をとりながら意見交換が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に広報の送付や配布をし、生活状態や行事をわかりやすく報告されている。面会時には、入居者の様子を伝え、ケアの記録や金銭管理台帳に目を通して頂き、サインまたは確認印を頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見・不満・苦情について全員で検討し随時記録に残されている。又、一年に一回家族会を開催され話しをする機会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は常勤6名、非常勤が3名である。離職の場合は入居者のダメージを防ぐ為、言葉がけや不安にならないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加されており、研修を受けた者は報告し、一人一人報告書にまとめられている。又、全員が閲覧出来る様、知識の共有も図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホームケア研究会を通じて外部での研修に参加し、同業者とのバレー大会、親睦会を通じた交流や意見を行う場もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族環境、状況を知る為にも事前に自宅訪問をされる。又、ホームの様子を見学して頂き、本人が馴染める雰囲気であるか家族と良く相談している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家庭での延長であるよう、お互いが協働しあいながら入居者から昔話・歌・知恵などを学び、支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所までの生活歴を伺い、ホームでの暮らし方、希望などを本人の思いに添えるように努力されている。家族会の時は必ず家族から意向を伺っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族の意見を取り入れながら介護計画を作成している。一部を家族に交付し、希望があれば申し出て頂く様にされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別ケア一覧表を作成し、一目で状態が把握出来る様になっている。毎月一回、介護計画を評価し、状態が変わった際はアセスメントをやり直し、現状に即したケアプランの変更を行い、家族の同意を得ている。</p>		

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時や墓参りの付き添いの支援を行っている。その他、ニーズに応じてサービスを支援されている。また、家族の宿泊も可能である。		現在、近隣の独居の方に対する、声掛けや緊急時の連絡先になる等の支援を行っておられる事から、より一層、多機能性を活かした地域のニーズに添った柔軟な支援を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、二週間に一回の受診と、一週間に一回医療連携の看護師が見えられる。かかりつけ医と連絡を密に取りながら緊急時の対応が出来るように支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針を明確に家族へ説明され、同意を得て書面に残されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアにおける声掛けや行為に対するプライバシーの配慮をされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し、思いを気づかいながら希望に添って支援されている。		

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の献立は決めておられず、その時「どんなものを食べたいか」入居者の方へ尋ねながら作られる。一緒に準備や出来る事は手伝って頂き、なごやかな雰囲気です。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回の入浴日の内、最低2回は入浴出来る様、体調・希望・タイミングを見て支援し、羞恥心にも配慮されている。又、介助者はマンツーマンの対応で行われる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時に生活歴・趣味などをお聞きし、特技や経験が発揮出来る様、場面作りや支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて花見・祭り・墓参り・散歩など日常的に外出支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを前提にしている。以前徘徊された方がおられたが近所の方が通報して下さる等、地域との関係作りが出来ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・地域の消防団・住民が参加され避難訓練・消火訓練が取り行われた。管理者・職員の方は自然災害の体験があられ、非常時のことは普段から意識付けられている。		

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間を抽出し管理栄養士にカロリー・献立を確認してもらっている。水分も食事以外にも促されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街であるが、不快な音も無く、地域と密着している。窓から観賞出来る花・木々・野菜畑は季節を感じさせ、やすらぎある環境作りに取り組まれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたものを、それぞれに持ち込まれて居られる。居心地の良い居室づくりがなされている。		